

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720091

研究課題名(和文) 戦前期における内地/外地を結ぶ書物流通の総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Research on Circulation of Japanese-Language Books and Magazines between Japan and its Oversea Territories before the World War II

研究代表者

日比 嘉高 (HIBI, Yoshitaka)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号：80334019

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦前期の帝国日本の各都市、各地方を結んで展開した書物の流通ネットワークを、外地を取引先とした取次業者、海外各地に店を構えた小売書店の活動に注目することで明らかにするものである。東アジア各地やハワイ、北米などへの日本人の侵出にともない、20世紀初頭から各地に日本人経営の書店が誕生した。1910年代からは各地域で徐々にこうした外地書店の組織化が進み、同時に内地とそれら書店を結ぶ書物取次網も機能を始めた。この研究では、取次書店としては大阪屋号書店、東京堂、三省堂ほか、小売書店としては朝鮮半島、台湾、旧満洲、樺太、ハワイ地域の小売書店に焦点を当て、帝国日本の書物流通の素描を試みた。

研究成果の概要(英文)：The objective of this research is to clarify our understanding of the distribution network for print that linked the various cities and regions of the Japanese empire prior to World War II, with a focus on the distributors and the retail bookstores that operated overseas. Bookstores run by Japanese appeared from the beginning of the twentieth century in all of the areas that saw Japanese overseas expansion, including East Asia, Hawaii, and North America. From the 1910s, these overseas bookstores steadily began to organize, beginning to function as a distribution network linked with booksellers in Japan. This research reveals the distribution system for print that existed throughout the Japanese empire, with a particular focus on distributors such as Osakayago Shoten, Tokyodo, and Sanseido, and retailers throughout the Korean peninsula, Taiwan, Manchuria, Sakhalin, and Hawaii.

研究分野：近現代日本文学・文化史

キーワード：外地 書店 書物流通 取次 朝鮮半島 台湾 満洲 内地

1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景としては、下記のような日本国内と海外を結ぶ書物流通についての先行研究、および申請者自身が継続してきた同学術領域における研究の蓄積があった。

米国と日本の間については、大学図書館の日本関連書籍の収集と蓄積について分析した和田敦彦の研究があった。また米国における日系人強制収容の図書室について考察した Andrew Wertheimer の研究もあった。東アジア地域においては上海の内山書店について比較的これまでも注目されてきており、古書店については沖田信悦の著作があった。

一方、申請者自身も米国における日系移民の文学と出版文化に関して、在外研究や科研費「北米日系移民の日本語文学に関する総合的研究 1868-1945」(課題番号 18720043)および「戦前期における日系カナダ移民の日本語文学環境の調査研究」(課題番号 19652019、連携研究者)があった。さらに、平成 21～23 年度においては、「環太平洋の書物流通と日本語文学 戦前期の北米・東アジア・日本を中心に」(課題番号 21682001)の課題を遂行していた。

以上の先行研究、申請者自身の研究成果による積み上げは、とりわけ米国と日本を中心とした出版文化の交渉史において厚いといえる。申請者は直近の科研費研究課題「環太平洋の書物流通と日本語文学」において東アジアにおける書物流通の研究へと歩を進めたが、課題は幅広く、台湾と朝鮮の一部の新刊書店について興味深い実態が浮かび上がったこと、書物流通を担う取次業者の重要性が痛感されたことなど、成果はあったものの、課題も多く残されていることが浮き彫りとなっていた。

2. 研究の目的

この研究課題においては、海外居留地における新刊書店の展開と、それらと内地を結んだ取次業者の実態の解明に焦点を絞った。これにより外地における出版と読者の界面が、書物の流通ネットワークの末端においてどのようになっていたかの実態が浮かび上がる。

これに交差させて、東京堂、大阪屋号書店、三省堂などといった外地への書物流通の鍵となった大手、中堅の取次業者の動向に注目する。近代日本における文化の血流とでも言うべき書物の流通が、どのような業者により、いかなる仕組みで担われていたのかは、とくにその戦前における外地をも含めた広域的な旧日本帝国全域のあり方としては、未調査の部分が多はなはだ多い。

以上により、戦前期における東アジアを

中心とした内地/外地を結ぶ新刊書物の流通の経路、関連した組織や個人の変遷、販売の実態、地域偏差、関わった人物たちの来歴などを明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

研究方法としては、文献資料を用いた調査分析を主軸としながら、それに現地踏査や、海外の研究者との研究交流による知見を加えた。

文献資料としては、書店関係者の回想、文学者をはじめとした書店の利用者の回想、新聞・雑誌記事、同業者組織である書籍商組合の組合関連資料、取次業者の社史、回想、関係者の回顧座談会、出版関係者の回想、社史、業界紙などを主たる資料体とした。

現地調査も行った。さらに研究目的において記述したように、本研究は多民族性への注目を一つの研究の特色としている。台湾、韓国、中国の研究者のアドバイス、彼らとの共同研究がもたらす視角は本研究にとって重要である。

4. 研究成果

最初の業績は「外地書店とリテラシーのゆくえ 第二次大戦前の組合史・書店史から考える」であった。これは小売書店の組合史資料および各書店史資料から、外地書店の概略を広く見渡そうとした論考である。具体的には、外地書店の同業者組織である外地の書籍雑誌商組合の歴史、そして外地書店が生まれ育つ際の典型的道筋の素描という二つの課題から外地書店の歴史に迫った。

また『文献継承』に連載している一連の台湾の書店についての論考がある。これは『台湾日日新報』の広告などを主たる材料としながら、従来から注目されてきた新高堂書店の歴史を再考するだけでなく、その他の書店の歴史をも合わせて明らかにしようとしているものである。

さらに朝鮮半島の書店の歴史を考察した「朝鮮半島における日本語書店の展開 戦前外地の書物流通(1)」もある。朝鮮半島における書店の歴史および流通のありかたについて、朝鮮書籍雑誌商組合の資料や内地の関連資料を用いながら考察した。日韓書房および大阪屋号書店京城支店および卸部、釜山の吉田博文堂などを、鍵となる書店として注目した。

内地外地を結ぶ書物流通に関しては、大阪屋号を始め、東京堂、三省堂、関西・九州の業者などを幅広く見渡し、従来大阪屋号書店のみに注目が集まってきた外地書物流通史を書き直すべく試みた。その成果の概略は、「大阪屋号書店・再考 外地/内

地を結ぶ書物流通」において研究報告している。

他には、大阪屋号書店の関係者へのインタビュー、台北、ソウル、北京における現地調査、満洲、樺太、ハワイについての資料収集も行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

日比嘉高「外地書店とリテラシーのゆくえ 第二次大戦前の組合史・書店史から考える」『日本文学』日本文学協会、2013年1月、第62巻第1号、pp.44-56

日比嘉高「朝鮮半島における日本語書店の展開 戦前外地の書物流通(1)」『跨境 日本語文学研究』2014年6月、第1号、pp.205-219

日比嘉高「外地書店を追いかける 台湾・新高堂以前」『文献継承』金沢文園閣、2013年4月、第22号、pp.1-3

日比嘉高「外地書店を追いかける(2) 台湾・新高堂の誕生」『文献継承』金沢文園閣、2013年10月、第23号、pp.6-8

日比嘉高「外地書店を追いかける(3) 台湾・新高堂の誕生2」『文献継承』金沢文園閣、2014年6月、第24号、pp.1-3

〔学会発表〕(計 3 件)

日比嘉高「戦前外地の書物流通(1) 朝鮮半島における日本語書店の展開」東アジアと同時代日本文学フォーラム、第1回、高麗大学(韓国・ソウル)2013年10月18日

日比嘉高「大阪屋号書店・再考 外地/内地を結ぶ書物流通」日本出版学会 出版史研究部会、上智大学、2014年2月15日

HIBI Yoshitaka, Rethinking Circulation of Japanese-Language Books between Japan and its Oversea Territories before the World War II, ICC Research Unit "Japanese Literature in Motion," 上智大学、2015年1月23日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日比嘉高 (HIBI, Yoshitaka)
名古屋大学大学院・文学研究科・准教授
研究者番号：80334019

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

呉佩珍 (WU Peizhen)
台湾 国立政治大学・台湾文学研究所・副教授

鄭炳浩 (JUNG Byeongho)
韓国 高麗大学・日語日文学科・教授

李征 (LI Zheng)

中国 復旦大学・外国語文学学院・教授

テッド・マック (Ted Mack)

米国 ワシントン大学・アジア言語文学部・
准教授

浅岡邦雄 (ASAOKA Kunio)

中京大学・文学部・教授